赤い影

綾香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
赤い影

【Ｎコード】
Ｎ４９１４Ｂ

【作者名】
綾香

【あらすじ】
綺麗な夜空、綺麗な満月、綺麗な星。そんな日に少女にあったら、すぐさま戻って来るんだよ・・・。

（前書き）

時にグロ等含みます。それほど激しくはありませんが、苦手な方は見ないほうが懸命です。

少女が言った。

目の赤い、かわいらしい服を着た、

人形のような少女が。

「その水を、のんでは、ダメ。」

一言一言区切りをつけて、ゆっくりと。

少女はとても苦しそうだった。

「どうして駄目なんだい？」

問い返すと、赤い目の少女は悲しそうに言った。

「理由は、言えないの。」

少女は息をするのが辛そうだった。

「こんなに綺麗な水なのに？」

俺は問いた。

だって、その水があまりにも綺麗で、

おいしそうで、飲みたかったから。

頭上に浮かぶ夜空は綺麗な藍色で、

星たちはキラキラと輝いていて、

浮かぶ満月はまんまるでとても綺麗だったから。

その水には綺麗な満月と月が写りこんでいて、

また、夜空も写りこみ、綺麗な藍色だった。

「見えないの？気づかないの？」

「だから、どうして駄目なんだよ。」

少女はじれったそうに言う。

「知らないよ？後悔してもしらないよ？

助かり、たいのなら、その水を、諦めて、どこかへ行って。」

その少女の言い方に少々むかついた。

だって、まるでこの水を自分の所有物みたいに言うから。

「私、今、とってもお腹がすいているのよ。」

話がつながらない。少女は何を言いたいんだ。

「意味が分からないな、俺は飲むぞ。」

俺は手にひとすくい水をすくって、

ゆっくりと口に含んだ。

甘い甘い水だった。

でも・・水とは違う、不思議な味がした。

「なんだ・・コレは・・・。」

あたりを光が照らした。

少女の口が三日月のように曲がる。

「だから言ったのに。

まだ気づかないの？まだ気づかないの？

その水赤いよぉ。」

「え・・・・・？」

水を見た。赤かった。

・・・・・・・・この味は・・血だ・・・・・。

「やぁっと気づいた。

本当は食べたくなかったんだけどなぁ・・・・。

あなた、若くてまだ綺麗だし。

でもその水飲んじゃったし・・・・。

忠告したのに、おろかだねぇ。」

少女はもうさっきのような口調ではない。

「それに、私お腹空いてるんだぁ。」

少女の影が広がった。

少女の影は赤かった。

目の前が赤くなった。

陰が目の前に広がった。

俺が世の中で最後に見たのは、

綺麗な綺麗な三日月と、赤い星たちだった。

綺麗な綺麗な満月の日に、

少女に会ったら急いで家に戻っておいで。

じゃないと、少女に食べられちゃうよ。

影にのまれちゃうよ。

END

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4914b/

赤い影

2011年1月15日21時50分発行